

国際社会学 現代アメリカらしさの諸相 Part II

第四回 平成26年11月22日(土) 10:00~12:00

ロック音楽から見る50年代・60年代アメリカ

若者の声と商業主義

講師：東京外国語大学 大学院博士課程 立林 奈々子 氏

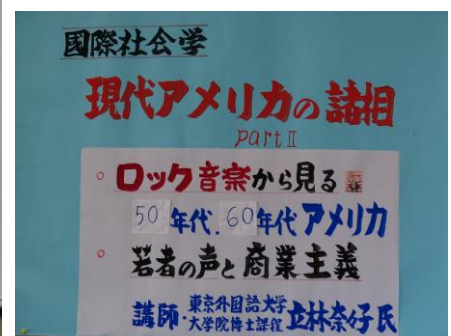
講座案内では「ロック音楽から見る60年代・70年代アメリカ」でしたが、ロックン・ロール誕生年が1955年であることから、先生が10年程前にポイントを置いて「ロック音楽から見る50年代・60年代アメリカ」とされました。受講生の年齢層に合されたとも言えます。

講義の内容は世相の説明とロック音楽・映像をまじえて進められた。最初に流された「グレン・ミラー “In the Mood”」、「フランク・シナトラ」歌声で青春時代に戻ってしまいました。心地良い響きです。受講生の皆様がほぼ同じ気持ちだったのでしょうか！ ”ここで中休みにします”の声で拍手が起きました。そして講義終了時の質問タイムでは、質問ではなく「このような素晴らしい講義はいままでなかった。来年も是非講義してください」との直接の要望でした。

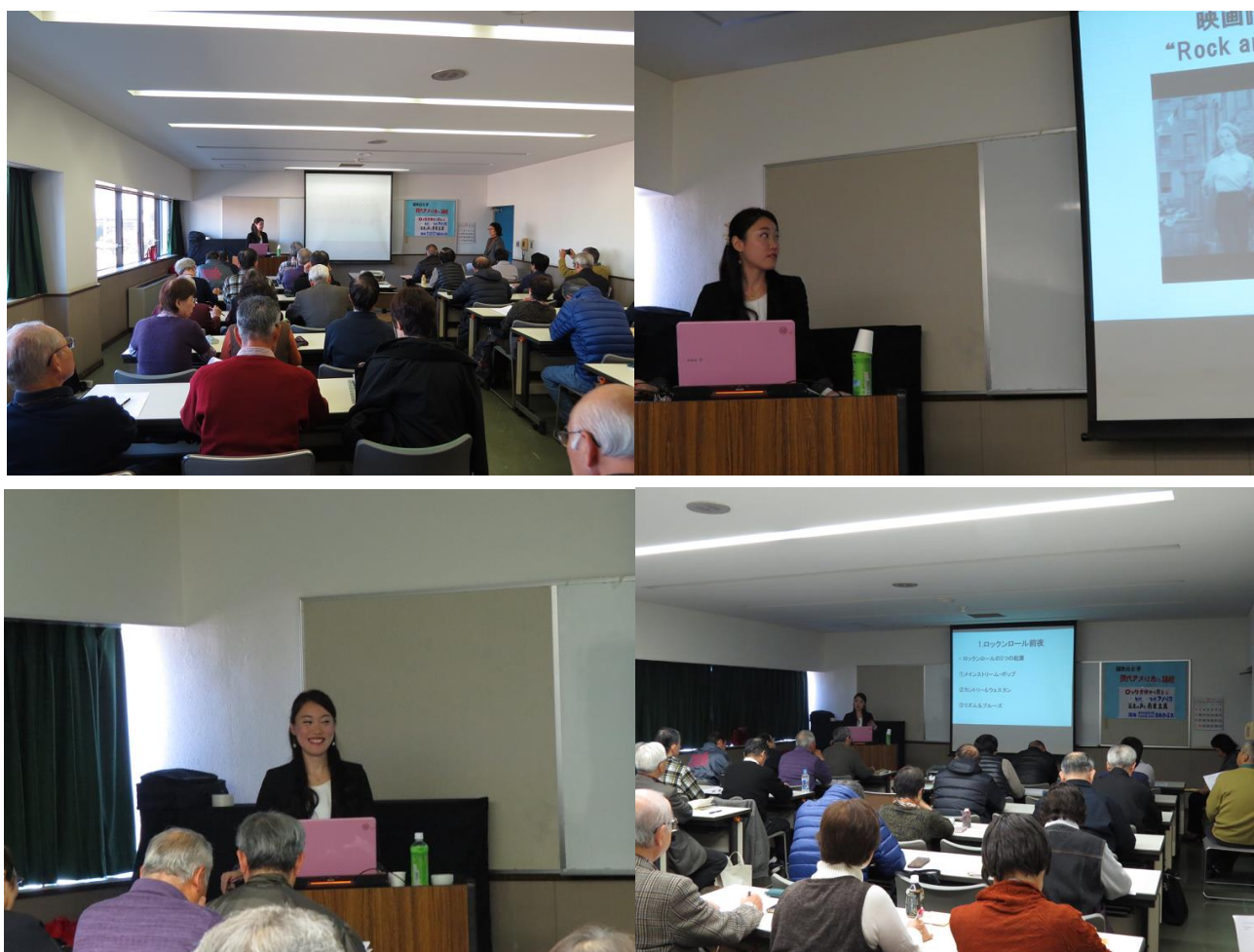
サブ・タイトルの『若者の声と商業主義』については受講生にとって納得のゆくものであったと思います。

今日の受講生40名

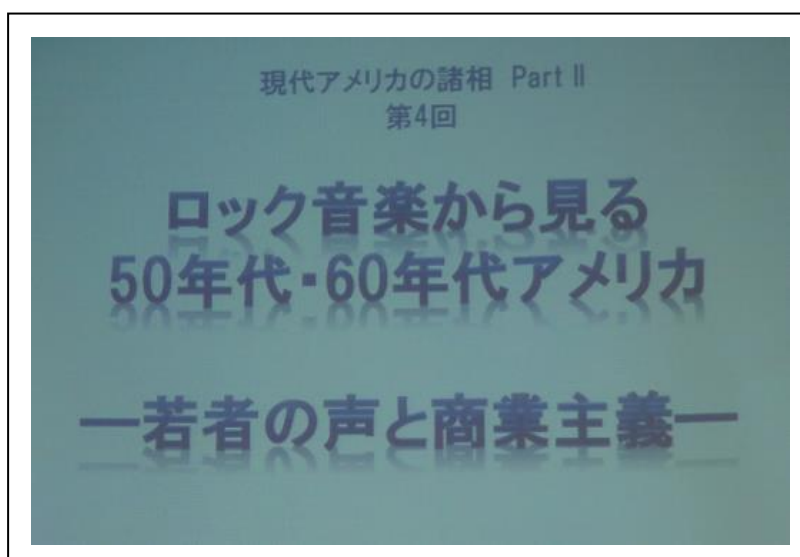
以下は、講義風景です。



< 講義風景 >



講義のPowerPoint表紙



以下は、講座のレジメです

はじめに

- ◎ロック音楽は、どのように「若者の声」となったのか。
- ◎ロック音楽と商業主義との切っても切れない関係

1. ロックンロール前夜 1940年代～1950年代前半

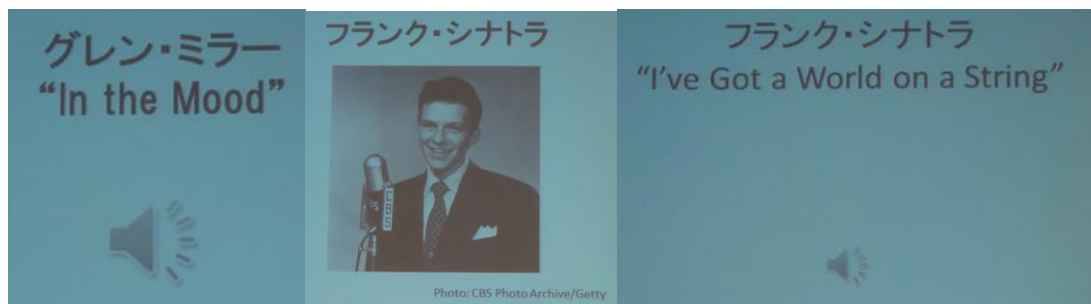
◎ロックンロールの3つの起源

① メインストリーム・ポップ

スイング

音楽ビジネスの中心・主流

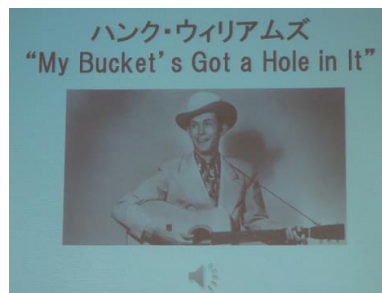
全国的な市場＝白人中産階級対象



② カントリー&ウェスタン

南部、南東部の下層白人階級向け

生々しい感情の吐露、労働者階級の辛苦



③ リズム&ブルーズ

黒人向け、成人向け

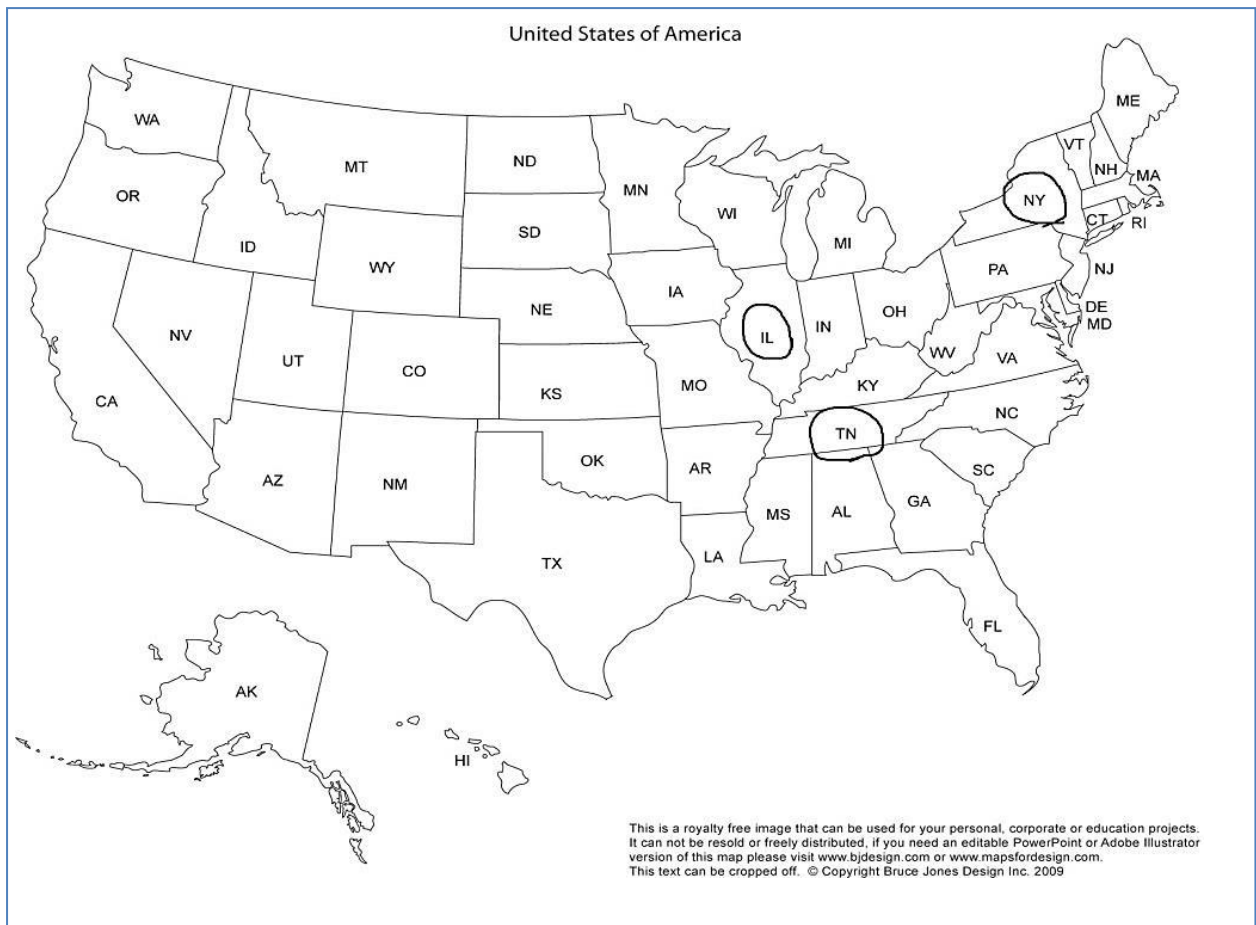
多様なジャンルの集積

Power Point なしであるが・・・

♪ レイ・チャールズ

♪ シカゴ・ブルース

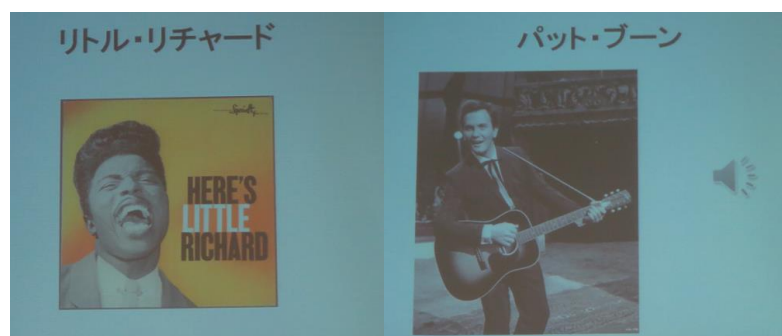
この地図は、どこの州で活動していたかを示したもの



2. ロックンロール誕生 1950年代半ば～

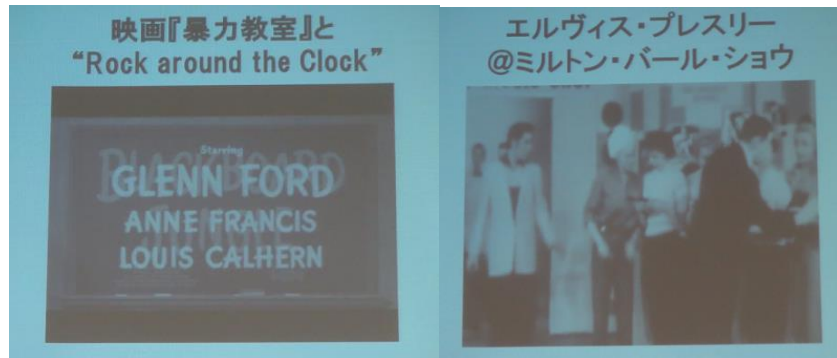
◎「ティーンエイジャー（10代）」の創造／登場

◎音楽ジャンルの壁の融解 ―クロスオーバー



◎1955年 ロックンロールの誕生

- ・アラン・フリード (DJ) の
ラジオ番組「ロック・アンド・ロール・パーティ」全国放送開始
- ・映画『暴力教室』の挿入歌 「ロック・アラウンド・ザ・クロック」
- ・エルヴィス・プレスリー「ザッツ・オールライト・ママ」録音

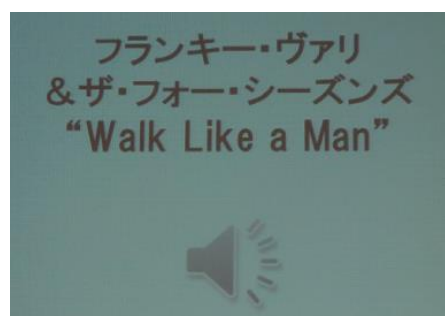


- ◎エルヴィス・プレスリーの全国的成功 ⇒3つのジャンルの融合
- ◎音楽産業の動揺・・・大手レコード会社による巻き返し、秩序回復
- ◎音楽の不可逆性・・・新奇なもの（novelty records）が続々と登場



Elvis Presley making his first appearance on 'The Ed Sullivan Show,' broadcast September 9, 1956 from Los Angeles, California.

©CBS Photo Archive/ Getty



3. 英国の侵略、社会変革とロック音楽 1960年代

3.英国の侵略、社会変革とロック音楽

- 1960年代
- 公民権運動
- ヴェトナム戦争

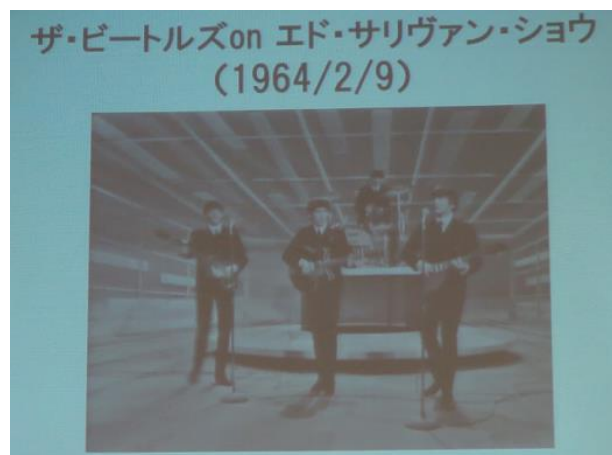


◎英国の侵略：ブリティッシュ・インヴェイジョン

1964.2.9 ビートルズ、テレビ番組『エド・サリヴァン・ショウ』に初出演

⇒若者たちのバンド結成ブーム

⇒音楽業界秩序の転覆

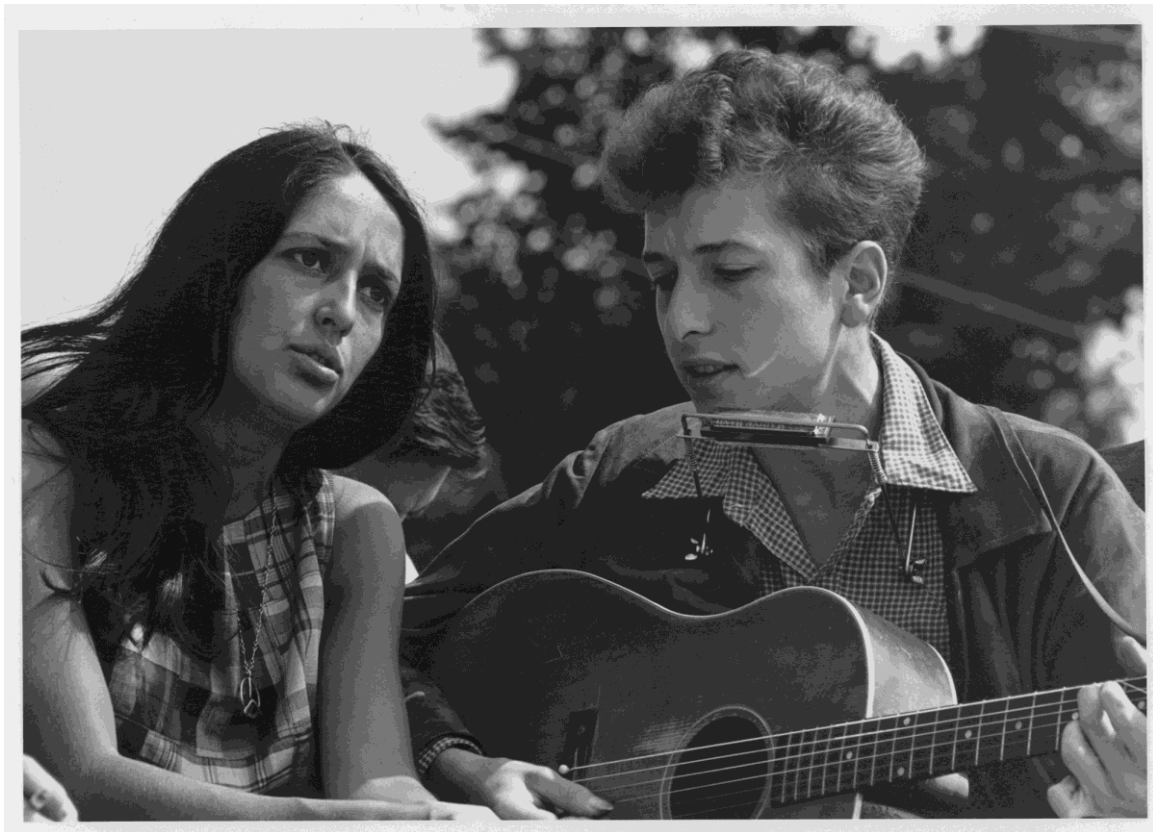


◎フォーク・ロック

ロックンロール第1世代の成長

ヴェトナム反戦運動と公民権運動 → プロテスト・ソング

「風に吹かれて」 ボブ・ディラン ピーター、ポール&マリー	ボブ・ディラン “Like a Rolling Stone”
--	--



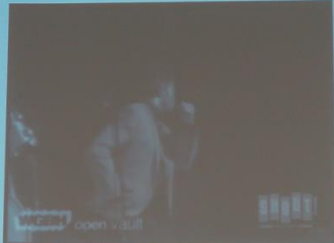
Civil Rights March on Washington, D.C. [Entertainment: closeup view of vocalists Joan Baez and Bob Dylan.], 08/28/1963

Retrieved at National Archives and Records Administration:

<http://research.archives.gov/description/542021> (accessed Nov. 14, 2014).

◎黒人音楽

商業主義と公民権運動

モータウン Sound of Young America ザ・テンプテーションズ "My Girl" ダイアナ・ロス & ザ・シュプリームス "I'm Gonna Make You Love Me"	スタックス=アトランティック ウィルソン・ピケット "Mustang Sally" アレサ・フランクリン "Chain of Fools"
マーヴィン・ゲイ "What's Goin' On" 	ジェームズ・ブラウン キング牧師暗殺翌日のコンサート 



James Brown performs onstage at the Santa Monica Civic Auditorium, in Santa Monica, California, as part of T.A.M.I. (Teenage Awards Music International), in October, 1964.

©Michael Ochs Archives /Getty.

◎ヒッピー文化との接触

実験、LSD、サイケデリック、東洋思想

音楽フェスティバル・・・モンタレー、ウッドストック、オルタモント

サイケデリック・ビートルズ "Lucy in the Sky with Diamonds" 🔊 "Blue Jay Way" 🔊	ジミ・ヘンドリックス@ウッドストック 
--	---

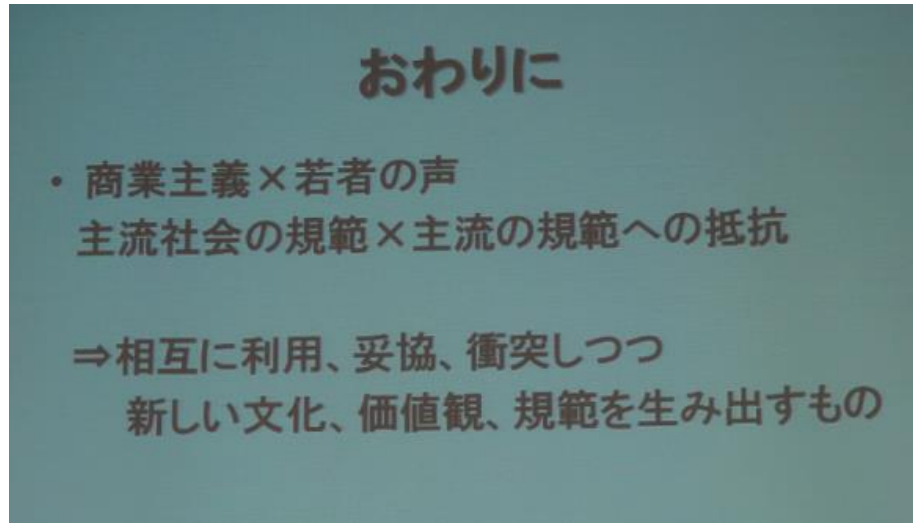
おわりに

◎商業主義と新しい文化・価値の開拓 ―規範と挑戦

◎ロック・ビジネス・・・1970年代～巨大化

◎若者の声・異議申し立ての表現として定着

ロック音楽も歳を重ねる・・・必ずしも若者だけのものではなくなる。



以上です。